

宮川流域ルネッサンス円卓会議2007 流域円卓会議報告書



宮川流域ルネッサンス協議会
ファシリテーター
奥山 壽一

■ 宮川流域ルネッサンス円卓会議2007

テーマ

「子ども達との連携を広げよう」

≡ 宮川流域で子ども達と… ≡

各流域で話しやすく、活発な意見が出せるような場の設定

上流域

- 大台地区より上流
- 谷深く渓谷・源流
- 平野少なく山間部
- 大自然・里山



中流域

- 度会地区周辺
- 川幅広く緩やか
- 山低く、平野部
- 里山・農地



下流域

- 伊勢地区周辺
- 川幅広く汽水域
- 平野の都市部
- 市街地



参加メンバー

- 宮川流域案内人
- 先生・学校関係者
- 地域実践活動者
- 有職者

参加者の活動

- 流域いっせいチェックから
- 宮川・支流をフィールドに
- 地元食材を通じて
- 里山・森をフィールドに
- 様々な生活文化を通じて
- いきものを通じて
- リサイクル活動を通じて

話し合いの基本的考え方

- 楽しくわいわいと
- 子どもの視点で
- 流域全体が活動の場
(川・山・海・里山・田畑・森・林・街道・街等)
- 子ども達の生活を考える
(家庭・学校・地域)
- 活発な意見そして思いやり

○ 宮川環境ポイント

景観・自然環境・生活観・生物・農山風景・街風景・産業・人口

■ 宮川流域ルネッサンス円卓会議2007

● 上流域 円卓会議 2007年11月25日

子ども達と活動する為に...

参加者の活動や思い

- カンつぶし活動からエコを考え伝える(大紀・紀勢)
- 地元の里山づくりを通して、自然の大切さを伝える(大紀・紀勢)
- 先人の生活文化を実生活の中で伝え学ぶ(大紀・大宮)
- 学校の部活を通じて川を知る(地元の川を絵に...) (大紀・大内山)
- 流域の食を通じて生活や健康の大切さを... (大台・宮川)
- 流域の生活文化に触れる(祭り・農林業等) (大台・宮川)
- 宮川の水を厳しく見直す(大台・宮川)
(ダム必要性・水質・生きもの)
- 自分の子どもの頃の川に戻す(大台)
- 地域住民・案内人を通じて宮川を知り学ぶ(大台)

意見・提案・アイデアの集約

● 全体的提案

- 現在の宮川の本当の姿を知るべき
- 生活の中から川が消えている
- 子ども達が素直にUターンできるように
- 大人が手をかけすぎる
- 子ども達中心に物事を考える
- 地域と学校の協働が必要
- やる気・団結・そして継続する
- 今、先人(おじいさん・おばあさん)に学ぶ
- お金でなく知恵を出す
- 宮川情報ネットワークづくり(子ども中心)
- 各分野の人材リスト作成

● 学校・各機関

- ゴミ拾い→アート→展示→PR
- 地域住民と話し合いの場を持つ
- 幅広く植樹を計画し続ける
- 校長先生等トップの決断が必要
- 地域と子どものパイプ役になる

● 地域・家族

- 学校では体験するが家族では少ない
- 学校へ地域からアプローチを行う
- 大人・親がまず流域を学ぶべき
- 流域食材を使う(土日は地域食)

全体的提言

- 流域の生活文化を学び子ども達の実生活に組み入れる(学校生活・家庭生活)
- 様々な活動に対しスタートより子ども達共に進める
- 地域と学校との話し合いを周期的に持つ(1~2ヶ月に1回)
- おじいさん・おばあさん等先人との交流の場を持つ
- 教育委員会・校長の理解と協力を得る
- お金を使わず知恵を出す

具体的提案

- 流域の人材リスト作成(自然・農林・生活・文化等)
- 子どもを中心とした流域情報ネットワークをつくる
- ゴミ・流木・石等流域素材を使ったアート展の開催
- 土日は地域食材を使って食事をとる(地域のおはなし)

■ 宮川流域ルネッサンス円卓会議2007

● 中流域 円卓会議 2007年12月1日

子ども達と活動する為に・・・

参加者の活動や思い

- パッチワークリサイクルを通してもの大切さを(度会)
- 案内人・ガイドをして地域のよさやふるさとをPR(玉城)
- 食生活を考え、見直し、子ども達に自然の恵みの大切さを使える(度会)
- 水・土・緑を守り、農業を通して生活の安全を伝える。子どもは将来をつないでくれる宝(多気・勢和)
- 学校の総合学習時間を使って川の汚れを調査し話し合った。一過性で終わらないように・・・(玉城)
- 子ども達との観察会を通じて親御さんも対象にしないといけないことを知る(多気)
- 今の子ども達は自然の中で遊ぶことを知らない。地域の自然や祭りの大切さを伝える(玉城)
- 地域や近所同志のつながりも希薄になっているので食を通して取り戻す(度会)

意見・提案・アイデアの集約

● 全体的提案

- 身近な自然がなくなっているので生活の近くに自然を取り戻すべき
- 親や大人の意識改革が必要
- 川が大きな排水流路溝となっている
- 川だけでなく、野山の生きものも減っている
- 祭等地域の行事も少なくなり子どもとの接点なくなっているので再生したい
- 自然の中で遊ぶことが人間らしさを育てる
- 流域人材リストをつくり活用する
- わかりやすい流域テキストをつくる
- 生活本来の中に取り入れる
- 流域素材を使って遊ぶ・学ぶ

● 学校・各機関

- 地域住民にゲストティーチャーとして来ていただき学習している
- 熱心・やる気が大事であり先生しだい
- その年活動したことの申し送りが必要
- 学校で地域の副読本を作っている
- 先生が代っても続けられるしくみをつくる

● 地域・家族

- 地域から学校へ働きかけが必要
- 父さんの参加が少ない。親の理解が必要
- 家族全体で子どもに興味を持たせる
- 親がいろいろと段取りしすぎる

全体的提言

- 親や大人に活動意識をもってもらうしかけが必要
- 子ども達に身近な自然との接点を持つように心がける
- 流域素材を十分使って遊び学ぶ(竹・炭・木・石・土・産物等)
- 流域の祭・行事に積極的に子ども達が参加するしかけ
- やはり熱心さ・やる気が必要
- 先生が代っても活動できるしくみづくり
- 地域のおじいさん・おばあさんの参加

具体的提案

- 各学校単位でゲストティーチャーを設定し地域学習を行う
- 流域人材リストの作成
- 流域のわかりやすい副読本の作成
- 親・大人があまり段取りし過ぎない
- 地域から学校へ働きかける
- わかりやすい流域テキストの作成
- 一過性の体験イベントはやめる

● 下流域 円卓会議 2007年12月2日

参加者の活動や思い

- 海や山の学校を開き子ども達に地域の自然を学んでもらう(伊勢)
- 宮川河川の清掃を長年行っている(伊勢・宮川)
- 案内人としてルネッサンスの資料をもとに川の観察を行っている(伊勢)
- 社会科の授業で環境をテーマに近くの川を調査し文化祭で発表する(伊勢・城田)
- 街中の現在も生きる文化や歴史を学び伝える(伊勢)
- 流域の川で観察会を行う。時に水に関し、使うまでは気にするが使ってからは関心が低いことが問題である(伊勢・四郷)
- 港を中心に海洋の教育を行い、子ども達に歴史・文化を伝える(伊勢)
- いっせいチェックを当初から参加し水の大切さを伝える(伊勢)
- 生活科の授業で宮川をテーマとし宮川の水や生物を文化遺産として残せないかを子ども達と考える(伊勢・中島)
- 案内人として幅広く水環境を調査、提案を行っている。子ども達も含めエコミュージアムにも取り組んでいる(伊勢)

意見・提案・アイデアの集約

● 全体的提案

- 各地で自然学校を開催しネットワーク化し交流する
- 川の清掃をしっかりと続ける
- 身近な川をしっかりと知り学ぶ
- 水は使うまでは気にする。使った後は気にしない。これはいけない。循環意識をしっかりと持つ
- 地域・街の文化を子ども達中心に伝え、生活の一部とする
- 海・山はつながっていることを日常から意識する
- 地域と学校との接点を持つ

● 学校・各機関

- 先生の転勤や、小学校から中学校への進学時に活動が途切れる
- 地域住民をゲストティーチャーとして受け入れカリキュラムに取り組む
- 理科・社会科の授業での地域住民参加はどうか
- 先生の温度差があり、基本的活動交流のしくみをつくる
- 子ども達を集めるのは学校が得意であり、そして地域と連携する。教育特区をつくる
- 教育委員会へのアプローチと理解を得る
- 流域の森をPRするパンフレットをつくった
- 先生の雑務を減らし活動に力を入れてもらう
- 学習時間でなくクラブや同好会でも活動できる

● 地域・家族

- まず大人・親が流域の大切さを学び示す
- 親や大人がつくりすぎてしまう
- 道徳・モラルはやはり家族が主になる
- スポーツ少年団のシステムを学ぶ
- 地域から学校を幅広くサポートする

全体的提言

- 「使う水は気にするが、使った水は気にしない」からの意識改革
- 流域の自然や行事とのふれあいを生活に取り入れる(一過性でない参加と継続)
- 学校における活動が継続できるシステムをつくる
- 流域と関連する科目への地域住民の参加参画(理科・社会等)
- 教育委員会へのアプローチと理解
- 地域から学校をサポートする企画
- 道徳やモラルはやはり家庭が主に

具体的提案

- 各地で小さくても自然学校を開催する、そしてネットワーク
- 続けることに意味のある川の清掃
- 地域住民がゲストティーチャーとして学校へ参加(地域生活やモラル)
- 地域協働型教育特区をつくる
- 先生や担当が代わる時、必ず活動の申し送りを行う

■ 宮川流域ルネッサンス円卓会議2007

● 全流域円卓会議のまとめ及び2008年への展望と方向性

流域全体のまとめ

● 全体的提言

- ・子ども達の実生活の中に流域の自然や生活文化と取り入れ持続して生きる
- ・地域と学校と子ども達との周期的に話し合いの場をつくる
- ・先生や地域担当が代わっても続けられる体制を整える
- ・教育委員会・PTA等に働きかけ理解と協力を得る
- ・地域が学校をサポートする

● 具体的提案

- ・流域の人材リストをつくる
- ・子ども達を中心にした流域情報ネットワークをつくる
- ・土日は地域食材を使って食事を作り、地域の話をする
- ・流域のテキストや副読本をつくり学ぶ
- ・地域住民がゲストティーチャーとして学校に参加する

今後の役割及び方向性

● 地域・家族

- ・子ども達の実生活に自然を生かす
- ・大人・親がまず流域を真剣に考える
- ・PTA・子ども会での流域活動・交流（先人・祭・行事・流域生活・モラル等）
- ・学校を幅広くサポートする体制づくり
- ・流域の様々な情報提供

● 学校・各機関

- ・子どもたちの実生活に流域を生かす
- ・教育委員会との地域連携の確認・協力
- ・地域との連携の為の基本マニュアル作成（話し合いの場、ゲストティーチャー等）
- ・先生方の積極的な流域の人・自然との交流（総合学習・科目・流域テキスト・話し等）

● 宮川流域ルネッサンス協議会

- ・流域人材リストの作成
- ・流域テキスト作成“宮川流域と共に・・・”（生活・素材・食材・活動・はなし等）
- ・学校と地域の連携のためのサポート

流域の将来を担う子ども達へ

- ・流域の大切さを学ぶ
- ・流域のやさしさを知る
- ・流域のきびしさを知る
- ・流域で道徳を学ぶ
- ・流域で輪が広がる
- ・流域に教えられ生きる
- ・流域に生き、伝える
- ・流域を離れ思う
- ・流域を思い、流域に戻る

■ 宮川流域ルネッサンス円卓会議2007

● 流域円卓会議から…

「子ども達との活動を広げよう」－ 流域体制フロー計画 －

生きるための道徳

家庭

**流域に生きる
子ども達**

学校

流域・地域

生きるための知恵

生きるための知識

- 流域に生きている意識
- 流域行事への参加
- 流域のモラルを学ぶ
- 流域生活文化の継承

- お互いの理解と協力
- 子ども視点の積極的活動
- それぞれの立場での責任感
- 各団体連携とサポート

- 流域人材・テキスト活用
- 流域活動の持続性
- お互い連携とサポート
- 教育機関の理解・柔軟性